

■ 輸液ポンプ使用十ヶ条

一. バッテリーの充電

バッテリーを使用するのは、移動時のみにして下さい。

一. 点滴スタンドへの取り付け

取り付け位置が高すぎると、点滴スタンドは安定しません。

一. 回路をセットする前にポンプの電源を ON にする

電源を入れると、ポンプは自己診断を開始します。その際回路をセットしておく、微量ですが薬液を患者側へ送ってしまいます。

一. 指定の回路を使用する

指定外の回路を使用すると、流量誤差の増加・アラームの誤動作などが発生します。

一. クレンメはポンプの下流側

ポンプの上流でクレンメを閉じたまま開始してしまっても、アラームが鳴らない、もしくは鳴るのが遅くなります。

一. 回路は、まっすぐ確実にセットする

正しくセットしないと、輸液が確実に行えない・各種アラームが誤動作する等の可能性があります。

一. 点滴プローブの取り付け位置

位置によっては滴下を検知できなかったり、多めに検知してしまうことがあります。

一. 流量と予定量の入力間違い

流量の設定画面なのか、予定量の設定画面なのか、確認してから設定して下さい。

一. 輸液ポンプを開ける際には、必ずクレンメを閉じる

フリーフローの可能性があるので、必ずクレンメは閉じて下さい。

一. 定期的な回路交換

回路が劣化すると、流量誤差が増大します。